

報道された広大

- # 中国論壇Ⅱ育みの教育を―生活通し自立を促そう、教育学部教授 今泉信人さん(中国、3・28)
- # 留学生指導まかせて―公募の広大講師に元銀行マン西川さんと主婦八木さん(中国、4・2)
- # あこの歯科X線写真でピタリ―骨粗鬆症 容易に診断、早期発見も可能に 広大歯学部グループ開発(中国、4・3)
- # 愚直に生きて―竹下虎之助 賀茂台地―広大移転で県奔走(中国、4・6)
- # 思い新た 公立校始業式―広大大学附属病院、中学校の分級開設(朝日、4・7)
- # 知的好奇心を大切に、広大入学式 原田学長が訓示(中国、4・8)
- # 文化短信―川越広大教授に雄山閣考古学賞(山陽、4・8)
- # 初の「エイズ」講演、広大入学式(朝日、中国、毎日、読売、産経、山陽、4・9)
- # でのた―熟睡と安眠 広大大学総合科学部教授 堀 忠雄さん(中国、4・9)
- # 広大 歴史誇る同窓会「尚志会」―大学移転先に用地確保したが、「いせん」新居 決まらず 建築規制がネック、資金集めも未着手(中国、4・11)
- # 交通ルール守って学生生活楽しく、広大でチラシ配布―西条署がテント村(中国東広島版、4・12)
- # 中国論壇Ⅱ安芸防予Qルート構想と架橋、安全で便利 島も活性化―広大大学教授 樺本 功(中国、4・18)
- # 最前線―地域文化を担う―音楽で広島らしき訴え、創作オペラ「犀」の「恵理人」役―教育学部講師 枝川さん(産経、4・19)
- # 一館―留学生援助運動を、広大アジア競技大会に寄せて―交流の輪 絶やさない、住民を軸に体制づくり 広大大学院国際協力研究科教授 浜渦哲雄さん(中国、4・21)
- # 国際協力研究科、一期生が入学式―広大大学院(中国、4・26)
- # この人―広大平和科学センター長に就任 松尾雅嗣さん(中国、5・3)
- # 学園都市の良さ 市民にも―広大・近大が5講座担当、環境や街づくりテーマに 東広島市中央公民館(中国、5・6)
- # 保健士 地域の健康管理手助け―広大講師 桂さんら全国で六十七人誕生 「高齢化」へ新戦力、男性の意識改革も期待(中国、5・6)
- # 広島の公開講座―食糧を考える、あすから受講者募集(中国、5・12)
- # 広大本部キャンパス周辺、街もり立てへムード高まる―大学移転後に向けて、キックベース大会など開催(毎日、5・13)
- # ばら花壇コンクール、二十団体入賞 成果映き誇る―最優秀に広大付福山中・高、学校ぐるみで八百五十本(中国備後版、読売備後版、5・13)
- # 情報ネットワーク稼働、世界の研究者と通信OK―広大 全学部のコンピュータ結ぶ、電子メール 講義に活用も(中国、5・14)
- # 商品イメージ生かす言葉、自在に引き出し―広島大・長町教授、KDD中央研 新システム開発、ネーミングに役立つ(中国、5・14)
- # 渡航治療費募り寄付 東広島ウエストLCC―ウクライナの被ばく母子救おう、広大教授の運動に協力(中国東広島版、6・23)
- # 学園都市の良さ 市民にも、広大・近大が5講座担当 環境や街づくりテーマに―東広島市中央公民館(中国、5・6)
- # 広大大学部が移転、西条で記念式(中国、5・22)
- # 耳研究者の栄誉「パラニイ賞」、原田・広大学長が受賞(中国、5・26)

編集後記

この四月に、平成六年度の広報委員会が新メンバーでスタートした。新メンバーで、と言っても十七名中五名は再任によるので、まるつきり顔触れが変わったわけではない。表紙の装いも新たにした本号の発刊が、その初仕事となった。

しかし、本号の原稿の大半は昨年度の委員会から引継いだものである。真価を問われるのは次号からになる。今後とも、本誌に対する忌憚のないご意見をお寄せいただきたい。

「何かが起こる」。これは、あるプロ野球球団の本年度のキャッチフレーズである。大変刺激的であり、また挑発的でもある。これは近年の国際状況や昨年来のわが国における政情の激変が背景となっているであろう。大学改革も叫ばれて久しい。大学でも「何かが起こる」か。ちなみに、この球団は万年Bクラスであったが、本年度はトップグループにいる。単なる春の椿事ではなさそうだ。確かに「何かが起こっている」。

広島大学広報委員会に関する現規程では、「広島大学教職員・学生に対する広報活動」が本委員会の主任務となっている。大学も、今後ますます学内外に開かれなければならない。したがって広報活動の重要性が増しているなかで、本委員会の目的・使命の再検討が眉眉の問題である。近々、本委員会内にワーキンググループをつくり、規程の改正を含め、組織体制、委員会の所掌事務、学生の参画等について検討を行いたい。

最後に、本学の教職員・学生の皆さんにお願いがある。裏表紙のフォーラム・ギャラリーに掲載する作品を、今期から公募としたい。

このギャラリーは毎回好評を博している。学内の皆さんから絵画・彫刻・写真などをお寄せいただいで、よりいっそう充実させていきたいと考えている。作品は、ネガフィルムかポジフィルムで企画調査課あて送付してください。

(第26期広報委員会委員長 辰巳 淳)